

飛鳥 ASUKA KAWARABAN  
かわら版

2022年  
7月

夏空号

第208号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室  
 発行人 永野 正将  
 ADD: 〒780-0945 高知市本宮町65-6  
 TEL: 088-850-0588  
 MAIL: info@asuka-net.jp



自然がボクの先生。

自然と遊び、自然に学ぶ。  
 生きる力を育む、  
 大切な「かかわり」。

撮影・制作：株式会社 飛鳥 (はやっし)

連載ページ

暑中お見舞い	01	まっことめでたい 96 歳	06
キルギスタンからコンニチハ <sup>84</sup>	02	勝手に興味あるある隊	07
新聞余話 <sup>18</sup>	03	ちーくんの釣り日記	09
おのころじま奮染記 26	04	広告	10
いろいろかいろ その三十四	05	わが家の太郎 <sup>55</sup>	11

ソビエト時代のテレビ映画に『運命の皮肉』というコメディがある。大晦日、乾杯続きで酔い潰れた主人公が同僚の悪戯でモスクワからレニングラード行きの飛行機に乗せられてしまう。空港に着いて、タクシーに住所を告げると、通りの名も番地もモスクワの自宅と同じアパートに運んでくれる。自分の鍵でドアを開け中に入る。部屋の間取りは全く同じ。我が家と疑わず眠りこけていくところへ本物の部屋の主が帰宅し、ドタバタ騒動が始まるのだが、痛快な風刺が散りばめられていて大ヒットした。ロシアでもキルギスでも旧ソ連各国では今でも大晦日にテレビ放映される。この映画を観ずに

プロパガンダに  
利用される  
「ことばと文化」  
氏原名美



年は越せないのだ。モスクワとレニングラードで所番地も作りもそっくり同じアパートがあるなんて荒唐無稽どころか、然もありなんと思ふ理由がある。ソビエト時代の都市は、政権トップの名に因んだ五階建てのフルシチョフカや十階建てのブレジネフカといった画一的な集合住宅の団地で出来上がっていて、どこかの国の街なのかすぐには見分けがつかない。商業センターの建物もサーカスも、劇場も図書館も、通りを挟んだ幅広の歩道に街路樹を配した眺めも同じ。映画では風刺だが、ロシアの包囲攻撃で破壊されたウクライナの街々は他人事ではない。ビシケクに重なって胸が痛くなる。

都市の構造だけではない。ソビエト時代は、同じ新聞に目を通し、同じ作家の作品を読み、モスフィルムやレンフィルム

の映画を観た。クラシックも流行りの歌も、ちよっぴり社会批判の薬味が効いたバルドやロックグループの歌もソ連全土に響いていた。各国が独立して別々の道を歩み始め、外交関係

に温度差は生じたけれど、音楽や文化・芸術は国境を自由に往き来した。かつて国を同じくした人々ともロシア語を共有することので一体感を味わっていたはずだ。

それが、今やウクライナはロシアと文化的にも決別しようとしている。六月一九日、ウクライナ議会がロシア音楽のメディアや公共の場での放送禁止法案を賛成多数で可決したのだ。書籍も、ロシアとロシアの同盟国のベラルーシや占領されている地域からの持ち込みが禁止され、ロシアやベラルーシ以外の国からのロシア語資料が輸入できなくなるといふ。

チャイコフスキーなどの楽曲は演奏可能で、全てのロシア音楽が禁止されるのではない。出版物も音楽と同様の免除規定がある。排除されるのは、原則、ロシアの侵略戦争支持を表明した音楽家や作家だ。トルストイでさええ檜玉に上がっている。ウクライナの社会・政治誌のサイトに「ロシア民族の精神的優位性を説くトルストイの作品は自ら標榜する平和主義と矛盾している。ロシアが他国への優位性を放棄するまでは

本棚の隅に追いやっておこう」という大学教授のコラムが掲載されていた。ロシア語は国際社会で通用する領域を失いつけている。

日本でもロシア語やロシア文化に対する嫌悪が喧伝されるような気配だ。日本ロシア文学会の声明にある通り「言語や文学や文化は国家や体制から自律した営み」なのだが、人はプロパガンダに翻弄される。夫の労働運動に苦勞させられたという祖母が、五十年前に第二外国語として「ソ連のことば」を選択した孫のことを「赤くなる」と案じていたのを思い出す。

たとえ戦火が収まっていたとしても、今年の大晦日、『運命の皮肉』がウクライナで放映されることはないだろう。

氏原 名美

うじはら・なみ  
キルギス共和国 ビシケク国立大学教授  
越知町出身。北海道大学卒。

「キルギスタン」はキルギス共和国の通称の一つ。なお、研究者によっては「クルグズ共和国」あるいは「クルグズスタン」を国名のカタカナ表記として採用している。

ビシケク国立大学 東洋国際関係学部 日本語日本文学講座

ビシケク市内(キルギス日本語センター)

# 暑中お見舞い申し上げます

平素は格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

未だ治まる様子がない新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願うとともに、時節柄皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

誠に勝手ながら弊社夏期休業は下記の通りとさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

**8月11日(木)・12日(金)・13日(土)・14日(日)・15日(月)**

**ASKA CREATIVE**  
株式会社 飛鳥  
代表取締役 永野正将  
従業員一同

## 私たち、株式会社 飛鳥はSDGs (持続可能な開発目標) に取り組んでいます。

実質再生可能なエネルギー100%の電力を確保し、環境への配慮を実施しています。

リコー再生エネルギー100%の電力を供給していることを証明いたします。

発行番号: 飛鳥再生100-000000  
発行機関: 株式会社リコー (認定番号: 2024081312001)  
エネルギー: 2024年8月1日 - 2024年12月31日  
発電設備: 2024年8月1日 - 2024年12月31日

新聞には社会を変える力があ  
ります。

ヘッポコ記者だった私のさ  
やかな経験です。2回目の高知  
勤務だった2009年、読者か  
ら1通の手紙をいただきました。

四万十町志和出身の山野上純  
夫さん(当時79歳)。久しぶりの  
帰郷で、再開発が大詰めの高知  
駅前を歩いたことが綴られてい  
ました。以前は石川啄木の父が  
当地で亡くなったことを示す標  
柱があったことに触れ、「小さく  
てもよいから記念碑ができない  
ものかなあ」。

「これや」と叫んでいました。啄  
木にも短歌にも関心のない私で  
すが、毎週書いていたコラムの  
ネタを探していたのです。



お披露目された啄木父子の歌碑。岡崎市長(左)は  
あいさつの中で、筆者の例の駄歌を紹介した=高知  
駅前で2009年9月12日

### 新聞余話⑧ 大澤重人



## 社会を変える力

調べてみると  
啄木の姉とらの  
夫が鉄道官吏  
で、その転勤と  
ともに同居して  
いた啄木の父  
一禎(1850  
~1927年)  
が土佐に移り住  
んでいたのだ  
です。1992年

に設置された標柱は再開発のた  
め撤去され、高知駅の倉庫の片  
隅にありました。放置されてい  
るも同然です。標柱を再び設置  
できたら。そんな願いを込めて  
「悲しき異郷の路」と題したコラ  
ムを書き進めます。執筆中に悪  
魔がささやきました。最後を短  
歌で締めたら、カッコいいぞ。

異郷の地倉庫に眠る道しるべ  
今なお続く放浪の旅  
掲載したものの、何の反応も  
ありません。一計を講じました。  
県内の短歌結社の会報を頼り  
に、見知らぬ歌人たちに記事を  
ファクスしたのです。記事のい  
わば「押し売り」です。厚かま  
しいのが大嫌いな私がよくもま  
あ……。

幸運に恵まれました。送り先の  
一つが偶然にも、標柱設置に携わ  
った国見純生さんの結社「海風」  
の梶田順子さんでした。国見さん  
は標柱の撤去を残念がりながら他  
界されていたのです。そこからは  
一気でした。県内の歌人らで啄木  
父子の歌碑を建てる会が結成さ  
れ、標柱の再設置どころか、歌碑  
建立という想定外の目標に向かっ  
て走り出します。

もう一つ幸運がありました。  
歌碑を作っても用地がないと話  
になりません。梶田さんらが岡  
崎誠也・高知市長に陳情したと  
ころ、「文化は継承しないとい  
けない」と駅前の市有地の提供  
を快諾してもらったのです。

啄木人気はさすがで、全国か  
ら約300万円の募金が集まり  
ました。09年9月の歌碑のお披  
露目では、山野上さんも自宅の  
ある京都府から駆けつけました。  
実は、新聞社の大先輩でした。  
その後、何十通もの郵便を交わ  
し、ご指導いただきました。広  
島で被爆し、新婚旅行を兼ねて  
帰郷する際、翌日に沈没する宇  
高連絡船の紫雲丸に乗りました。  
「二度死ぬところだった」とい

大先輩も年齢には勝てず、昨年  
末に旅立たれました。享年92。

今、世論の形成にかつてほ  
ど新聞の影響力を感ぜません。  
2020年に検察庁法改正案  
が廃案に追い込まれるなど、  
SNSなどネットの方に軍配  
が上がっています。権力に物言  
い、力を持たない人の代弁をす  
るのが本来の新聞ですが、あろ  
うことか政権にそんたくする姿  
勢さえ垣間見えます。情報拡散  
の遅さという紙媒体の制約に加  
え、本来の役割すら揺らいでい  
るのです。新聞とネットを複合  
させたこの時代ならではの手法  
で、声なき声に光を当ててほし  
い。OBの一人としてそう願ひ  
ます。天国の山野上さんも同じ  
気持ちだと思います。

新聞には社会を変える力が、  
今もある、はずです。



大澤 重人  
おおざわ しげと  
渡来歴史館(大津市  
専門員、元毎日新聞高  
知支局長

近著に「咲くや むくげの花」朝鮮少女の  
想い継いで(富山房インターナショナル刊)

# おのころじま

ふんせんき

## 26. 型染 ④ なきむしせいとく 田島征彦

一九四五年四月、あの戦争の時、ぼ  
くが大阪の堺でなくて、沖縄にいたら  
……という発想で沖縄戦の絵本にとりか  
かって、もう数年が過ぎました。

沖縄戦の資料や本を何度も読み返  
しています。特に凄惨な体験が書か  
れた手記のすさまじさは、自分が実  
際に戦場にいる気持ちになります。

物語がどのように終わるかが掴め  
ないまま、型染で染め上った場面が  
少しずつ完成しました。7才の主人  
公、泣き虫の「せいとく」が戦場を  
さまよう様子を、7才の言葉で型染  
の絵につけて、フェイスブックへ投  
稿してみました。

すると、それを見た人々から、  
こんな絵本があれば、子どもたちに  
読んでやりたい。そんな言葉が寄せ  
られてきました。思い切った恐い場

面を出しても、受けてくれています。  
出版社に話すと、編集者がおのころ  
じまへ来てくれました。

若い編集者、ニシオくんは沖縄取  
材にでかけることにしました。ぼく  
は30年以上も取材していますが、編  
集者には、沖縄戦のことを現場で知  
ってもらいたいです。ニシオくん  
は沖縄に着くとレンタカーを借りて、  
ぼくの行きたい場所へ連れて行って  
くれます。車の運転ができないの  
で、ずいぶん不便な思いをしてきた  
ので、もっと早くニシオくんと組め  
ていたらと悔しく思いました。

取材旅行の毎に、お世話になるの  
が佐喜真美術館です。  
この美術館は原爆の図を描いた丸  
木位里さん、俊さんの「沖縄戦の図」  
を中心に展示してあります。

戦後の基地闘争の中で歌われた歌  
を、ぼくは今度も訪れた美術館へ来  
て想いました。あの激しさが、絵本  
の力にならないかと考えたのです。

「なきむし せいとく」の最後の  
場面が、こうしてでき上がりました。  
戦争に負けて、日本は沖縄をアメ  
リカに差し出したのです。何もかも  
破壊され焼き尽くされた土地に、せ  
いとくたちは、力を合せて畑を作り  
ました。しかし、畑は機関銃とブル  
ドーザーでとり上げられ、焼き払わ  
れます。



いまはアメリカに、占領されています。  
でも、沖縄は日本にとったら、こんなものは、  
壊れぬ手で、すぐになくしてしまうさあ。  
だって、戦争のくるしさを  
一番知っているのは、  
ぼくらなんだから。

せいとくは叫びます。  
「いまはアメリカに、占領され  
ています。でも沖縄が日本にもどつ  
たらこんなものは、ぼくたちの手で  
すぐになくしてしまうさあ。だって  
戦争のくるしみを一番知っているの  
は、ぼくたちなんだから。」  
ぼくたちは、再び佐喜真美術館を  
訪ねました。館長夫妻と上間学芸員  
に完成を喜んでもらうのです。  
ぼくは、ていねいに3人の前で最  
後の場面まで読み上げました。  
するとすぐに上間さんが顔を上げ  
て、言いました。  
『ぼくたちの手で、すぐになくし  
てしまうさあ』の『ぼくたちの手で』  
をとって下さい。』

上間さんの言葉にびっくりして、  
すぐに反論しました。「一番自信の  
ある言葉です。どうしてですか?」

上間さんは、まっすぐ、ぼくを見  
て言いました。  
『ぼくたちは沖縄の人たちです  
ね。基地をなくすのは、沖縄の人た  
ちだけの力ですか?日本人、みんな  
の力ではないのですか?』

ぼくは、うちのめされた気持ちで  
した。40年も沖縄に通ってきて、ぼ  
くの心は、沖縄への同情だったのだ  
ろうか。自分の問題だと、考えてな  
かったのか。恥ずかしさで、ぼくは  
顔を上げられませんでした。  
絵本は完成しました。

たくさん賞賛と共感が寄せら  
れました。



田島 征彦  
たじま ゆきひこ  
染色家・絵本作家

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過  
す。京都市立美術大学染織図案科専攻科修  
了。一九七八年「じごくのそうえい」で第  
一回絵本にっぽん賞。二〇一五年「ふしぎ  
なともだち」で第二十回日本絵本大賞。沖  
縄の子どものために主人公にした「やんばる  
の少年」の次には沖縄戦を題材に、子ども  
たちに、戦争のことを、平和の大切さを伝  
える絵本「なきむしせいとく」が最新作。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

# しるし かろろ

その三十四

## 天に代りて

安藝眞一

新型コロナの災禍が、まだ激のよ  
うに地球上に漂って息をひそめてい  
る様相の中に、突然ロシアの手によ  
って戦争がはじまった。コロナに  
してもワクチン接種が四回目という長  
丁場にもおどろくが、その渦中に侵  
攻という戦争の雄叫びはどういう事  
なのかと狼狽えるばかりである。新  
型コロナも年を越え、幾月もの山と  
谷を越え、感染者が億を数えるとい  
う前代未聞の災いという中に、戦争  
という難儀ごとを始めたというて  
は、トラブルの大波が幾重にも押し  
寄せるならば侵攻という人殺しも、  
うやむやになると腹をくくった恐ろ  
しさが大国にある事が判った。

そ日中戦争というが、当時は支那事  
変が普通の呼び方で支那という二  
字が定着していて、戦争をしている  
のに「支那の夜」という唄が流行し  
て、戦いも遊びも一括りの世相であ  
る。三つ四つの年ともなれば幸の中  
が判りようもなく、戦争中という空  
気は日常事で、まだ食べ物も少々あ  
って、時々、兵隊さん万々才！とい  
つていれば何事もなく日が昏れた。  
幼稚園は何の戦争の影もなく、小学  
校に入った時、教室にたたみ一枚程  
の地図がかけられていて、その世  
界地図の色分けが日本は赤、英国  
は桃色、中国は黄色とかに分かれ  
ていて、日本列島は無論、赤。朝  
鮮半島も満州も赤。台湾の島も赤  
く塗りつぶされていて、すでにあ  
ちこちに日本の力がひろがってい  
るのが一年生にも判った。

とする、という侵攻を美文にして歌  
いあげる。その旗の下には、どれ程  
の人々の恐怖と命が消えていった  
のか。日露戦争でロシアに勝ち、日  
清戦争で中国に勝った思い上がり、  
国民にも戦になれば必ず勝つとい  
う思い込みが連なって、歌とともに  
太平洋戦争に突入した。真珠湾攻撃  
の時も、シンガポール陥落の時も町  
のすべての人が、天に代りて不義を  
討つと声高に歌っていた。勝利感が  
あったのは、開戦三ヶ月位のこと、  
いつしか町に歌が消え、その後の戦  
いの行方が新聞から消えた。音もな  
く進んだ昭和十八年、十九年、不意  
に音たてたのは日本の友軍ではな  
く、アメリカ兵による本土空襲の連  
なり。サイパン島の玉砕が報じられ  
重なり、ここでやっと日本が敗ける  
と思いつめる内に広島に落ちた巨  
大爆弾。その日の高知新聞には「原  
爆」の文字はなく、一面でもなく、  
二面上段の四段抜きで「広島に強力  
爆弾投下さる」としかなかった。

おぼえた歌の最初は「天に代りて  
不義を討つ」という軍歌で学校で  
も家でも町でも、その元気な声とリ  
ズムが湧きかえっていた。  
歌いながら不思議はなかった。神  
にかわって不義なる悪者を討つのは  
我等日本人。と今思い返してみても  
何と手前勝手な歌であろうかと思  
う。国の外の人は不義であり悪者だ  
から、これを討ちこらして、我が国

して、編集して、出版するって！「ま  
つことめでたい96歳」を。  
まあビックリ。嬉しい！感謝！こ  
れからの日本社会を背負う人たち  
の、広い視野、行動力！越し方を再  
確認した上で、日本社会のこれから  
の若いエネルギーを感じます。

八十年、連呼した平和の叫びも大  
統領一人の押しボタンで呆気なく侵  
攻となる。ウクライナの戦いがもう  
四ヶ月にもなる。世界の各国は反対  
はするが反抗はなく。ロシアに経済  
的制裁を宣言したり、ウクライナに  
武器を送ることで体面を保つ。そし  
て時が流れていくのみで、かつて  
中国の古詩が「烽火三月に連なり」と  
詠嘆した戦いの世の末を眺める  
ばかりである。私達もその見物に  
まじり、連日のウクライナの報道  
をテレビが伝えるのを、平然と茶  
の間で対岸の火事のように眺める  
ばかりである。戦争への反対をす  
る私達の力は、声をあげるばかり  
の「蟬の斧」でしかない。この  
力のない蟬は地球中に何百万と  
いるであろうが、数が集まればとも  
斧は見るからに力なく頼りない。  
空を仰いで思う。「天に代りて  
」と身勝手なふるまいをする輩に、  
天そのものが怒り討ち果たすことは  
出来ないものかと思っている。蟬  
の一人は或は総てが、天にねがっ  
ていると思えてならない。

安藝眞一  
あき・しんいち／高知市

了

## 昭和・平成・令和を

### ゼンブ見た

### 老女の「覚え書」

去る4月28日、満96歳を迎えた私。  
昭和・平成・令和と生きるなかで、  
84歳(2009・平成21)から、覚  
え書「ノート」を書いて、今  
18冊めです。

と、昔からの家のこと、家族・親  
戚のこと、人生観：「ああ、そう  
だったのネってことになってほし  
くて」と、書棚に並べていった  
ピンクの大学ノート。  
すると、人生の終点を身近にし  
た今、ふとした事から、若い友人

「まっことめでたい96歳」  
著者：松崎 淳子  
B6版：224頁 定価：1,500円(税込)  
※本のお問い合わせは飛鳥まで



私の「昭和、平成、令和」覚え書  
「まっことめでたい96歳」  
松崎 淳子

大好評  
販売中

このノート「私の死後、  
娘たちが遺品ノートを開い  
て読んでくれるかな」と、  
願いつつ書いてきました。  
というのは私が幼かった昭  
和初期、なんぞといえれば親  
族が集って、最後は、おき  
やく、になって大声で話し  
合うなかで、「一族の歴史」  
「家族・親族の情報」が、  
子供たちにも伝わり、その  
情報は大切でした。が、敗  
戦を機に社会は大きく変わ  
り、一族の集りも、家族のコミュニ  
ケーションもなくなっていきまし  
た。家族が揃っていた夕食の食卓も、  
今は仕事優先で、個食が多くて。  
で、私は「娘たちに伝えたいこと  
を書き残そう。私の死後「アレ?コ  
レ、ナニ?」と大学ノートをめくる

たちが、書棚のノート群  
(2009・2021の13  
冊)を開いて、昔の風景を  
見る思いの、昭和のすべて  
を見ることなき若い友人た  
ち：「これ貸して!」と。  
そして、その一部を取り出



先生を囲み「松崎淳子先生の本を出版する会」のメンバー

松崎 淳子(まつざき あつこ)  
■土佐伝統食研究会代表  
■よい食生活をすすめるネットワーク会長  
■土佐学協会副会長  
■こうち男女共同参画ポレール代表  
1926年生まれ  
昭和24年 高知県立女子専門学校生活科卒業  
同 年 高知女子大学助手となり、家政学部教授として調理学を主に専攻  
平成4年 定年退職 名誉教授(平成23年より高知県立大学に校名変更)  
平成17年 瑞宝中綬章  
平成19年 高知県文化賞  
平成28年 文部科学大臣表彰 地域文化功労(芸術文化)  
令和2年 高新大賞  
令和3年 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

このコーナーは飛鳥の社員が、興味のある人や物、お店など、なんでも勝手に紹介するコーナーです。



パート3は営業部、  
山中がご紹介します！

## 私の好きな本を 紹介させて下さい！

こんにちは。この度、四月一日に飛鳥に入社いたしました、山中雅（みやび）です。どうぞよろしく願いいたします。

高知県生まれ高知県育ち、身内もみんな高知県という生粋の高知人です。私は本が好きです。特に小説が好きでよく読んでいます。大学でも文学を専攻していました。ちなみに卒業論文は太宰治の『女生徒』という作品で書きました。飛鳥では、出版の仕事に携わっていきたくと思っています。

さて、今回は私が好きな小説を紹介する回にしたいと思います。二冊程ではありますが、お付き合いいただければ幸いです。

### 一冊目のご紹介 「ツリーハウス」

まず、はじめに紹介する作品は、角田光代先生の『ツリーハウス』です。私は、角田先生の本が好きで、自宅の本棚にも先生の本が多く並んでいます。直木賞など多くの作品で様々な賞を受賞されています。どの作品を紹介しようか三日三晩悩みました。この作品に決定した大きな決め手はやはり「人間」の描かれ方です。角田先生の描く人々はその作品でも、一人ひとりの感情、生い立ちや暮らし



た。長い年月、多くの人がつむいできた人生、生活の上で自分が存在するという事を改めて感じます。この作品は全体を通して、昭和の初期から平成までの人々の暮らしや街の様子、実際に起きた事件などが細かく描かれています。私は平成十一年生まれなので、作中に出てくる出来事が、経験していないことや知らなかったことであることも少なくはありませんでした。そのような場面からは多く考えさせられ、とても勉強になりました。読者の世代によって、関心を覚える場面は様々だと思います。

老若男女問わず読んでいただきたい作品です。



出版社：株式会社 文藝春秋  
定 価：825円（税込）

### 二冊目のご紹介 「夜が明ける」

次に紹介する作品は西加奈子先生の『夜が明ける』です。こちらの作品は、二〇二二年の本屋大賞にノミネートされた作品です。五年ぶりの長編ということで注目されていました。私は社会人になる少し前に読みました。

主人公の「俺」と「アキ」との友情、二人の生い立ちや成長、現在が描かれています。物語は、「俺」と「アキ」のパートに分かれて描かれていきます。どちらのパートでも、現代社会に根強く存在する、深刻な社会問題が色濃く描写されています。貧困、児童虐待、ジェンダー、過重労働などの、目を背けてはならない多くの問題が「俺」や「アキ」を含めた多くの登場人物に立ちまわります。このような重たい問題にどう対峙していくのか、自分は社会をどのように生きていくのかというところに主人公たちが苦悩しながらも、探していくところに私はとても感動しました。

また、主人公の高校の同級生の「遠峰」と同僚の「森」という女性の登場人物も出てきます。この女性たちも本当に心に突き刺さるような言葉を、多く「俺」に投げかけます。私は同じ女性として本当に共感し、力をもらいました。現在の「俺」を取り巻く仕事への苦悩からは、「働く」ということをどのよう捉えて生きていくのかということを考えさせられました。自分が社会人になる機会にこの作品に出会えたこと、社会に出る不安を和らげてくれたことに感謝しています。社会問題に向き合うという点で、とてもパワーのいる作品ですが、現在、現役バリバリで活躍されている方、お仕事を引退された方、新社会人の方など、多くの人たちの希望と力になる作品だと思っています。

ぶりがりアルで深みがあると思います。登場人物にいつも自然に感情移入してしまいます。その中でもこの作品は、登場人物たちの描かれ方が本当に細やかで素晴らしい、夢中になって読んでしまいました。

あらずじです。祖父が亡くなった日、孫の良嗣は、家族が誰も祖父の死に涙せず、悲しんでいるようにみえませんでした。それを皮切りに自分たちの家族の在り方に疑問を抱き、家族のルーツに興味を持ちました。良嗣は、祖母と祖父が出会ったという中国（当時は満洲）に、祖母と引きこもりの叔父を連れて三人で立ちます。この後も三人の旅が描かれる作品と思いきや、次の章からは、若き日の祖母と祖父の物語へと場面が一気に飛びます。このように三人の旅という「現在」と若き日の祖母たちという「過去」を行ったり来たりしながら物語は進みます。中国にやってきた三人は、変わり果てた地で、自分たちのルーツに迫るものを見つかることができるのか。また若き日の祖母たちはどのようにして出会い、家族となり、今までを歩んできたのか。少しずつ明かされていく家族の真実に時に切なく、時に温かな気持ちになります。

また、どちらの時間軸でも登場人物がその時代を「生きている」ということがはっきりと感じられます。過去の祖母も現在の祖母も違和感なく、そこに存在し、生きていると感じて感情移入が止まりませんで



出版社：株式会社 新潮社  
定 価：2,035円（税込）

以上が私の紹介したい作品です。他にもたくさん紹介したかったです。また機会がありましたらよろしく願います。少しでも興味を持って読んでいただける方がいれば嬉しいです。

改めまして、これから飛鳥の一員として頑張ってくださいですのでよろしく願います。



従来はオフセット印刷が主流だった白版印刷。一定の部数以上でなければ利用出来ないものでした。

# クリアも白も、手軽にPODで!

Print on Demand

名刺・DM・フライヤー・パンフレット・POP・カード・封筒など…個人や仕事にかかわらず  
クリアやホワイトをデザインに取り入れて Original / Premium / Stylish / Variation  
「より魅力的なアイテム」制作、試してみませんか?



クリア印刷

ニスやラミネートのような光沢感のクリアトナー。デザインの上での光沢コーティングや、コピーできないという特徴から偽造抑止に活用など、使用方法はアイデアの数だけ広がります!



ホワイト印刷

黒や濃色のメディアに白でデザインや文字を印刷することで特別感のある印刷物に!また、特殊メディアとの相性バツグン!アルミ蒸着紙などのメタリック調を活かしつつデザインすることも可能です。



RICOH Pro C7200SHT

必要な時に必要な数だけ  
という「おトク」  
必要なアイテムを必要な数だけ。足りなくなればリピートもカンタン。【小ロット/低コスト/短納期】を可能にするPOD活用のご提案です。

多彩な用紙で、多彩な表現を。普通紙やコート紙のほか、凹凸紙などに対応。立体POP、リーフレット、メニューなど、多彩な活用はアイデア次第!※紙によって印刷相性があります。事前にご相談ください。

幅広い用紙サイズ 100×139mm~330.2×487.7mmまで対応。さらに長尺印刷(片面時)は、最大1,260mmまで対応し、A4三つ折りのパンフレットや店頭パナー等も制作可能です。

中綴じ製本 小ロット(1冊~)からOK!表紙と本文の紙替なども対応可能です。※最大20枚(80p)程度まで(用紙種類、紙厚などのご使用条件によって異なる場合があります)

封筒への印刷OK! フルカラー印刷のオリジナル封筒など、小ロットから印刷できます。※セロハン窓等の熱で溶ける仕様のはプリント不可です。

小ロット  
OK!

短納期  
OK!

お問い合わせ・お見積り・ご注文は……株式会社 飛鳥まで **お気軽にご相談ください**

## ちくんの釣り日記



第7話

ファミリーフィッシング

5月に入り暖かくなり、天気もいいので家族で「キスでも釣りに行こうか!」となり、浦戸湾にファミリーフィッシングへ行ってきました!



時期的にキス釣りには少し早い感じはありましたが、それでもポイントさえ合えばそれなりのサイズのキスを釣ることができて満足

YouTube **あすか日記**  
ぜひ、ご視聴ください!  
チャンネル登録をお願いします!

の釣行となりました。今回、顔出しOKなのが三女の、あいちちゃんのみで、第3話の桂浜水族館以来の登場となりま

今回の達成魚種

- シロギス
- マゴチ
- アオハタ
- コトヒキ
- シログチ

トータル **27/100** 魚種

第6話 Family Fishing

が、顔出しNGが多いとカメラワークに気を使いますね。(苦笑)  
肝心の釣果は、湾内のエサ釣りだけあってリリース小物が多かったですが、5魚種と一気に稼ぐことができて、こちらも満足の結果に終わりました。  
釣れたキスは、天ぷらとフライ

第8話

チダイ祭り!

自分が経営者として駆け出しの頃からお世話になっているアニキ的な存在の、株式会社日東商事の山崎真人社長との釣行!  
真人さんとは、中小企業家同友会をきっかけに、その後も様々な経営者交流会でよく一緒にさせていた思い出があり、お互いの父親も同級生(ご縁ですね)今回はロケットクラブの流れで「釣り行こう!」という事で助っ人参戦と相成りました!



今回の達成魚種

- アカヒメジ

トータル **28/100** 魚種

第8話 チダイ祭り!

エビを餌にしたテナヤ釣りがバチツとはまってチダイ祭り!私もタイラバを諦めてテナヤに切り替えたいお陰で楽しむことができました。  
肝心の魚種ですが、残念ながら新しい魚種は1魚種のみとなりましたが、それでも1歩前進!コ



この釣行前は中々渋い釣果が続いており、どうなることかと心配しておりましたが、真人さんの活

# わが家の太郎

55



## 歳

### 永野雅子

今年も暑い夏がやってきた。コロナも一向に収まりそうもない中、7月7日に太郎は17歳の誕生日を迎えた。

去年の秋には、もうお別れかと思うほど弱っていたのに、復活してからは呆れるほど元気。相変わらずフェンスの隙間に鼻を突っ込んで揺すって外し、脱出を試みる。私もあの手この手で防御するが、太郎にはたっぷり時間があるけれど、こちらはとにかく忙しい。応急処置のガムテープ止めではすぐに外されるので、庭にあった大きなプロックを置いた。

すると、目が見えないものだから、そのプロックの角にぶつかって擦り傷を作ってしまった。

まった。そこでバスタオルをプロックに巻いて、これで大丈夫と思いきや、今度はそのタオルを時間をかけて外してある。もう、どうにでもしてくださいの心境。

そんな日々の中、夜中に寝返りも打てないほど胸が痛い。うつむくことも出来ないのので病院に行くと、レントゲン写真を見ながらお医者様が、

「何をしましたか？」

「何もしません」と私、

「何もしないで骨が折れることとはないでしょう！これは立派な肋骨骨折です」

「えーっ！」

「若く見えますが、歳を考えると動くように。当分安静です」  
痛み止めの薬と湿布、胸を固定するバンドをもらって帰った。

この暑い中、バンドを付けるなんてと思ったが、付けた方が何となく安定する。コルセットでなくて良かった。

どう考えても骨折をするような事をした覚えはないのだけれど、お医者様の言うように「歳なのだ」と、観念する。

太郎も人間なら100歳以上だと言うし、私ももうすぐ傘寿。お互い「歳だねえ」。

ところが今年、大忙しのひとつが松崎淳子先生の「まっことめでたい96歳」の出版をお手伝いさせていただいたこと。その先生が「永野さん、

80かね。若い若い、これからぞね」と仰る。96歳の先生に言われると、「まだ先生の歳まで16年あるやいか、前を向こう」という気になる。

ごはんも美味しいし、仕事もパソコンを使つてなんとか出来ている。骨折の後は皆の優しさが身にしみる。

ただ一つ、肝心の息子は、ラインで「お大事に」、もうひとり骨折から3日後に「どうぞえ」。

なんとか言いようはないですか？



永野 雅子  
ながの まさこ  
株式会社 飛鳥  
常務取締役

夫、和宏と共に写真植字業を創業。有限会社四国写植、のちに株式会社飛鳥へ社名変更すると共に、会社の発展を陰で支える。

読者の要望に応じて「わが家の太郎」の執筆を続け、現在に至る。



①~③⑨ +書き下ろし  
「わが家の太郎」  
A判変形 並製本 148頁  
定価 1,320円(税込)

「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第208号【夏空号】 飛鳥出版室

●発行所：株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将  
●住所：〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話：088-850-0588  
●メール：info@asuka-net.jp ●ホームページ：http://www.asuka-net.jp